

問い合わせ先
水島海上保安部
航行安全課長 藤内 裕治
電話：086-444-2967

玉野海上保安部
交通課長 狩野 忠
電話：0863-32-3589



令和7年1月6日
水島海上保安部
玉野海上保安部

令和6年 岡山県沿岸の船舶事故及び 人身事故の発生状況（速報）について

● 船舶事故52隻（前年対比+9隻）

☛ 船舶事故による死者・行方不明者なし。

● 人身事故52人（前年対比+12人）



注意1：数値は水島・玉野海上保安部管内の集計であり、岡山県の行政海域とは一部異なります。

注意2：発生数は速報値であり、事故調査結果等により増減する場合があります。

1 船舶事故発生状況

令和6年中の船舶事故隻数は52隻で、プレジャーボートが最も多く25隻（48%）、次いで漁船が8隻（15%）でした。

（1）令和6年 船舶事故発生状況（単位：隻）

		船舶種類					計	
		プレジャーボート	貨物船	漁船	遊漁船	タンカー		その他
海難種類	運航不能※	13		1			1	15
	乗揚	5	1	2	1		3	12
	衝突	3	1	2	1		1	8
	単独衝突	1	3	1		3	2	10
	浸水	2		1				3
	転覆	1		1				2
	火災		1					1
	その他						1	1
	計	25	6	8	2	3	8	52

※運航不能：機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏等により航行に支障が生じた船舶事故のことをいう。

(2) 船舶事故事例

① 水産庁取締船乗揚海難

発 生 日：令和6年5月21日

場 所：笠岡市所在の梶子島北側海域（水島海上保安部管内）

船舶種類：その他（官公庁船 取締船）（全長36.9m）

海難種類：乗揚

概 要：船長ほか13名が乗船し尾道から洲本（淡路島）向け出港。その後、笠岡市梶子島北側の浅瀬付近海域を航行中、浅瀬に底触し、機関室から浸水したため海上保安庁に救助要請を行った。巡視船艇到着時、船体は浸水により傾斜している状況だったが、乗組員は全員救命いかだへ移乗・退船し無事救助された。その後、船体は梶子島北側の海上で沈没した。



その後、船体は梶子島北側の海上で沈没した。

② プレジャーボート単独衝突

発 生 日：令和6年6月1日

場 所：備前市日生港沖（玉野海上保安部管内）

船舶種類：プレジャーボート（全長6.79m）

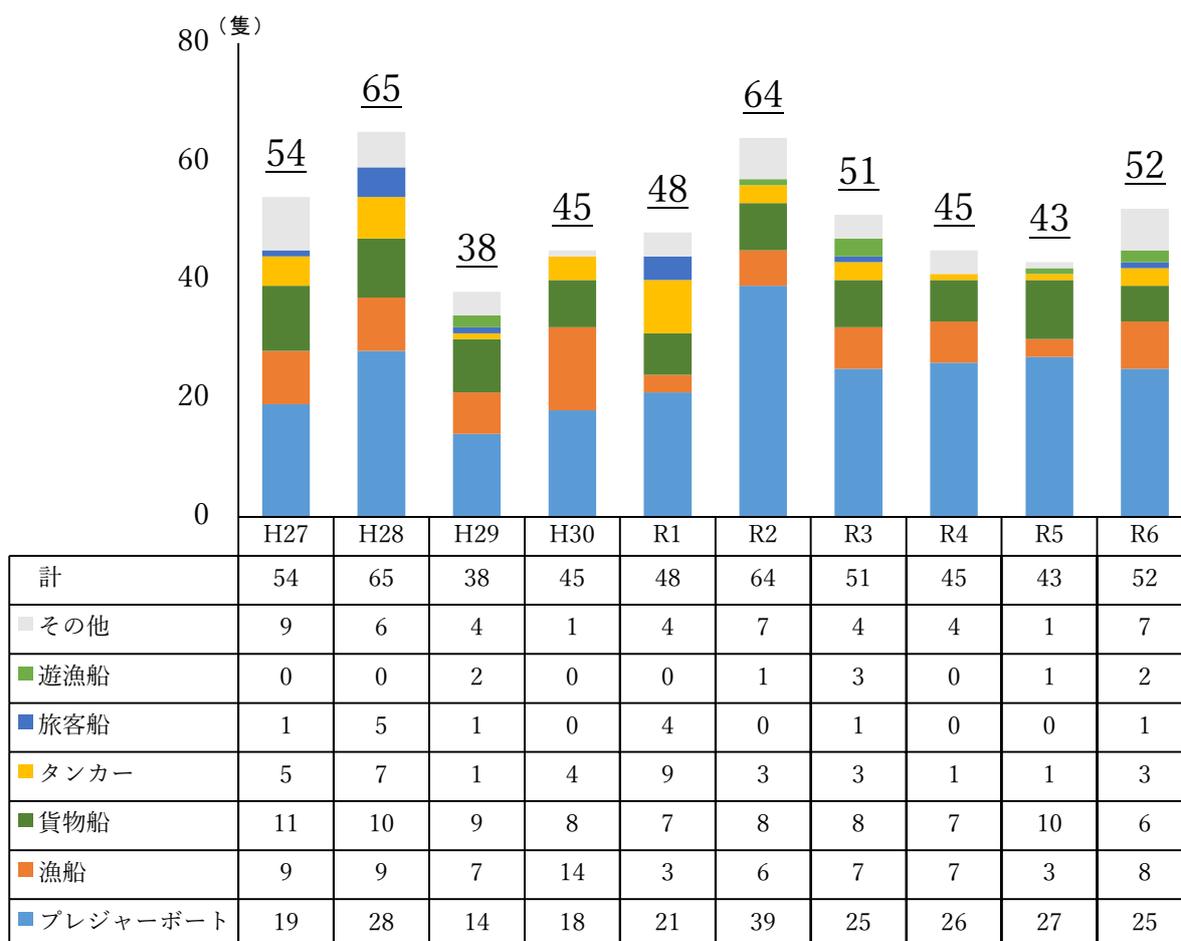
海難種類：単独衝突

概 要：事故船舶は、夜間、船長1名乗組みで家族を迎えに鴻島を出港。約15ノットで家族の待つ日生港に向け航行中、予定の時刻より遅れていたことから、その焦りから見張りが疎かになり、日生港沖の防波堤に衝突した。その後、到着が遅いことを心配した家族から依頼された知人の船により発見、日生港まで曳航救助され、船長も負傷により病院に搬送された。



その後、到着が遅いことを心配した家族から依頼された知人の船により発見、日生港まで曳航救助され、船長も負傷により病院に搬送された。

(3) 船舶事故の傾向



● 過去10年間の船舶事故発生隻数の年間平均は51隻。

(4) 船舶事故の対策

例年、プレジャーボートによる船舶事故が半数以上を占めています。

プレジャーボートの事故を種類別に見ると、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏等の運航不能が最多となっています。

このような状況からプレジャーボートの所有者等に対し

「出港前の点検の徹底」・「整備事業者による定期的な点検整備」

を引き続き呼びかけていきます。

また、貨物船・タンカーにおいては、甚大な事故に繋がるおそれのある衝突・乗揚げ事故が発生している状況から、船を運航する会社や船の乗組員に対し

「常時適切な見張り」・「自船位置の常時確認」・「事前の海域調査」

を引き続き呼びかけていきます。

2 人身事故発生状況

令和6年の人身事故者数は52人。マリレジャーに伴う海浜事故8人のうち遊泳中の事故は3人でした。

(1) 令和6年 人身事故発生状況 (単位：人) (括弧内は死者数)

		事故区分			計
		船舶事故以外の乗船中の事故	マリレジャー以外の海浜事故	マリレジャーに伴う海浜事故※	
事故内容	自殺		11 (11)		11 (11)
	海中転落	4 (2)	12 (6)	1 (1)	17 (9)
	帰還不能			2	2
	病気	7			7
	負傷	10		5 (1)	15 (1)
計		21 (2)	23 (17)	8 (2)	52 (21)

※マリレジャーに伴う海浜事故内訳：SUP中1人、釣り中1人（うち死者1人）
遊泳中3人（うち死者1人）、ウェイクボード中1人、トーイング遊具使用中2人

(2) 人身事故事例

① 遊泳中の溺水

発生日：令和6年7月19日

場所：倉敷市 大島海岸（水島海上保安部管内）

事故内容：溺水

概要：事故者（10代男性）は地元
の高等学校の同級生3名ら
と現場海域で遊泳していた
ところ、事故者を含めた2名
が砂浜を助走し、海へ飛び込
む遊びを開始。2名が交互に



計4回ほど飛び込みを行い、事故者が4回目の飛び込みを行った際、一度頭が浮上した直後に海面下へ沈み、そのまま浮上してこなかった。浮上してこない事故者を不審に感じた友人らが

海中を捜索するも遭難者を発見できなかったため110番通報したもの。事故者は、岡山県警察アクアリング隊により海中で発見されるも、搬送先の病院で死亡が確認された。

② 乗組員の海中転落

発 生 日：令和6年12月15日

場 所：玉野市宇野港（玉野海上保安部管内）

事故内容：乗組員移乗時の海中転落

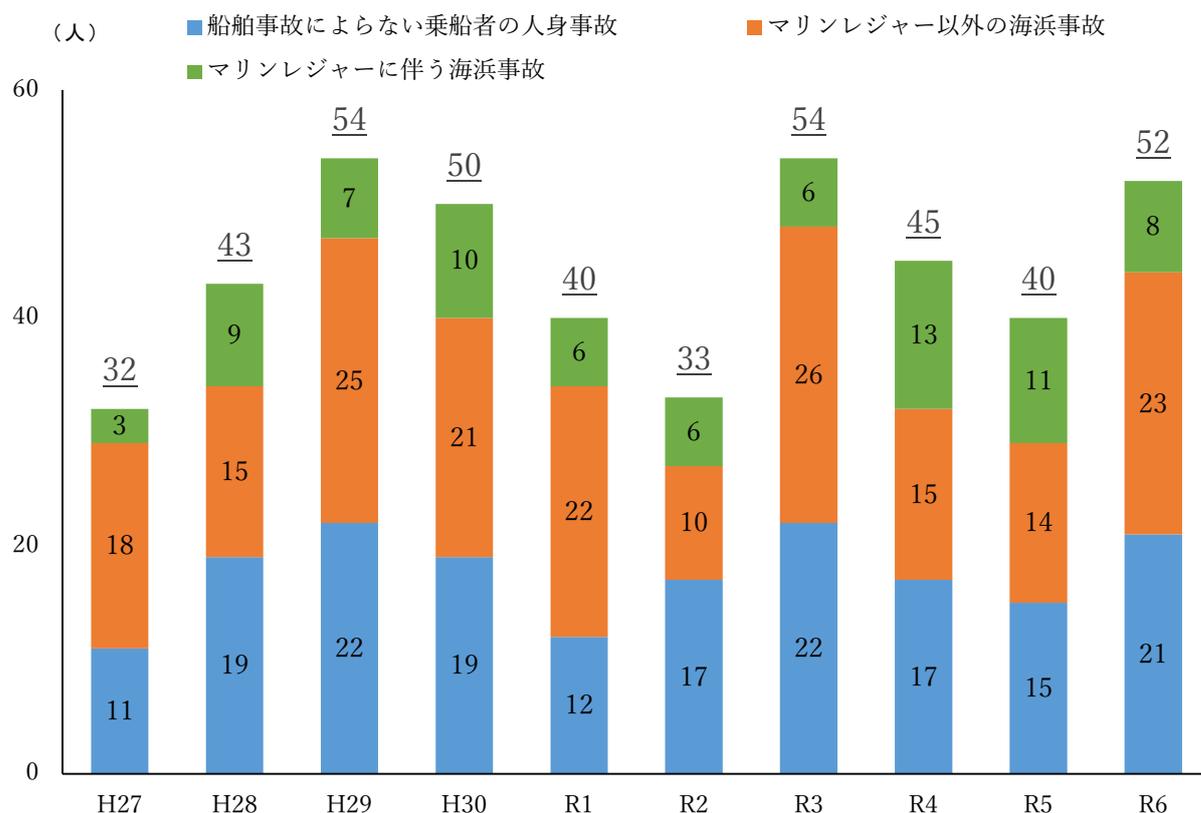
概 要：事故者（60代男性）は、玉野市宇野港に係留中のタンカーに移乗する際、誤って海中転落。付近の釣り客が事故者の助けを求める声に気が付き、付近にあったタイヤを



投げ入れ掴ませた後、警察と118番に通報。その後、通報を受けた警察職員と玉野保安部船艇職員により救助された。

（生命に別条なし）

(3) 人身事故の傾向



- 過去10年間の人身事故発生人数の年間平均は44人。
- 令和6年の「船舶事故によらない乗船者の人身事故」は21人で過去10年で3番目に多い。

(4) 人身事故の対策

例年、遊泳中の事故が発生しており、原因別では自己の不注意が多くを占めているため、

「開設された海水浴場での遊泳」・「飲酒後の遊泳の禁止」・「最新の気象情報の入手」・「ライフジャケットの着用」

を引き続き呼びかけていきます。

また、令和6年もトーイングチューブやウェイクボード、SUPなどのマリレジャースポーツ中の事故（4人）が発生しています。

SUPは免許が必要なく、釣り、ヨガ、クルージングなど様々な楽しみ方ができるほか、種類も多く、安価に購入できる物もあるため、慣れ親しみや

すく急速に普及しています。一方、荒天や技能不足により帰還不能となる事故も発生しています。安全に楽しむため、

「気象・海象の確認」・「基本技術の習得」・「複数行動」・「ライフジャケットの着用」・「連絡手段の確保」

を呼びかけていきます。

磯場や岸壁での釣りや作業の際には、

「気象・海象の確認」・「複数行動」・「立入禁止区域に入らない」

「ライフジャケットの着用」

の励行を呼びかけていきます。

また、去年は海中転落事故が例年より増加しており、特に高齢者が船舶での乗降時に足を踏み外すなどにより、海中に転落する事故（4人うち1人死亡）が増えています。これらの事故を防ぐため、

「足元に気をつける」・「動揺に気をつける」

等と呼び掛けていきます。